

市民が真ん中懇談会 質問・回答要旨

開催日・場所 令和3年11月28日(日) 10:30~12:00 イオンモール今治新都市 1階 ASBEE横

NO	項目	意見要旨	回答要旨(今後の対応策を含む)
1	まちづくり 今治の魅力について	・今治の方にいいところを聞くと「今治は何も無いけんね」と言われる。どうしたら今治に住んでいる方が自信をもって「ここがいいんだよ」と言ってもらえるようになるのか。	・今治に関心のある方はたくさんいる。そういった方に外からさまざまな刺激を入れていただき、今一度潜在する地域資源と一緒に探していただければありがたい。 ・市内にある地域資源を知っていただくため、若手市職員にPTにて選定した地域資源をまとめた冊子を作成中である。
2	まちづくり 大学を起点としたまちづくりについて	・大学を起点としたまちづくりを行っていくためには動物の飼育環境が必要である。まだまだ新設校であるが、定着していけば大学が起点となって地域の活性化につなげていけるのではないかと。	・大学を起点としたまちづくりは例えばFC今治の里山スタジアムにそうした場所ができないか提案している。 ・今年度中に市長と大学生がひざを交えて意見交換ができる場の設定を、大学事務局と調整中である。 ・飼育環境の整備については、地域の活性化につながるよう、大学と地域とで連携して検討していきたい。 ・また、お供馬や野間馬など地域の文化・資源も活かしながら、ホースセラピーなど障がい者・市民に対するさまざまな効果やニーズを提案し、有効な支援策の検討を行ってきたい。
3	定住促進 今治の人口流出について	・IT関連の就職先がないためどうしても県外に出てしまい人口減少が止まらないのではないかと。	・地域の強み、弱みは何なのかしっかりと整理し、市民の皆さんと追い求めていけるビジョン策定が必要である。今治は国家戦略特区があり、いろいろなことがチャレンジできるまち。SNSを使ったり、民放の市政広報番組等で情報発信をしながら、市外へ出ていった方々が今治に帰ってくるような仕掛けづくりをしていきたい。 ・許認可における国家戦略特区の優位性を活かした「近未来技術実証ワンストップセンター」を設置し、地域課題解決に向けた各種実証実験の相談を受付中である。本センターを最大限活用し、さまざまな企業と相談交渉する中で、IT関連等の企業立地及び雇用創出に繋げていきたい。 ・また、デジタルコンテンツを活用し、今まで以上に市内企業の魅力を市内外に発信することで、UIJターンの推進に繋げたい。
4	子育て支援 子ども食堂・地域食堂について	・子ども食堂、地域食堂の現状を教えてください。	・子ども食堂は、時代のトレンドになっている。現在市内9団体内で活動は4団体ほどあるが、12月議会にも食堂立ち上げや、窓口整備の予算を計上している。 ・市が子ども食堂を推進するには平等性が求められる。今後はどのような支援を行うか関係課が検討・協議を行っている。 ・公民館では現在、地域の方が地域食堂や学習支援等を実施する団体に、施設の貸し出しを行っている。今後は、子どもの居場所づくりに取り組む団体への補助などを検討している。
5	学校給食 子どもへの食育について	・日本一おいしい給食事業を行っているが、大人の“おいしい”と子どもの“おいしい”は違うので、子どもの食育として、メニュー作りに子どもたちを参加させたり、一緒にテーブルマナーなどを学ばるなどしても良いのではないかと。	・試食も何回も重ね、いろいろな制約をクリアして作成していただいたが、試食したのが大人であった。この点は反省し工夫しなければならない。味というのは押し付けるのではなく子ども目線で考える必要があったと思う。今後テーブルマナーも含めているような勉強になればいいと思う。 ・市外に出た子が「あの小学校の時に食べた給食、どこやったっけ。あの店にいったみようや」と思っていただけけるよう、いわゆる故郷に帰ってこいよ運動の一つでもあるとの認識を持っていただければありがたい。今後も地域の課題を子ども目線でしっかりと解決をしていく教育を展開していきたいと考えている。 ・給食の前に5分程度のDVDによって、イタリア給食では、写真や地図を用いて料理が生まれた地域を紹介し、フランス給食では、料理の名前の付け方やフォークとナイフの使い方を学んでいただいた。中華給食では、焼豚玉子飯の誕生の秘話や歴史を紹介した。次年度も実施する場合には、同様の方法で食育に取り組みたいと考えている。 ・制作中の学校給食PR番組は、学校給食の背景にある生産者や調理場の努力や苦勞を伝えることのできる内容に仕上げることとしている。 ・今後は、試食の段階でもっと多くの子どもたちの意見を聞くほか、アンケート結果を参考に、子どもたちが認める「日本一おいしい給食」を目指したい。そして、将来的には若者の地域定着に繋がるような持続可能な事業にしたいと思っている。

NO	項目	意見要旨	回答要旨(今後の対応策を含む)
6	交通安全 大学生の通学時の安全について	・大学にどこからアクセスするの坂がある。大半が自転車通学であるが、坂の街灯が暗く、危ないと感じている。	・市道の街灯についてはゼロ予算でLED化ができないか検討している状況である。 ・市内の道路灯についてはESCO方式による一括LED化を検討中である。 ・岡山理科大学の学生を中心に大学周辺において交通安全啓発活動を実施することで地域の交通安全意識を向上させ、事故防止に努める。
7	交通 市内のバスの利便性の向上について	・バスの利便性が向上されれば地域の活性化や学習環境、学生生活の利便性向上につながると思われる。	・バス会社はコロナ禍で大変経営が厳しい状況にあるが、現在、朝倉と吉海において社会実験を実施しているほか、観光面では市内を周遊する「くるくる今治プロジェクト」をしている。 ・「くるくる今治プロジェクト」については、観光課よりポスター、チラシを大学を通じて学生に配布して周知活動を実施している。 ・バスの交通政策については、関係する運行事業者、イオン、大学生らと意見交換の場を持ち、情報収集に努め、新たなモビリティ及びMaas等の導入も含め、市民の利便性向上に繋がる取組を検討したい。
8	施設整備 公園のトイレについて	・近見公園のトイレは工事現場のような簡易トイレで位置も分かりづらく、死角になっており子どもたち不安に思っているためトイレの整備をお願いしたい。	・市全体の中で美観を保ちながら、安心できる場所をどう整備するかしっかりと検討を重ねて答えを出していく。 ・近見山のトイレの現状は、中腹部のロータリーのところにコンクリートブロック造の男女共用トイレと展望台の駐車場に仮設トイレを設置している。中腹部のトイレについては、昭和39年3月に設置され57年経過し老朽化が著しく、また、駐車場のトイレは、現在、水道がきていないため仮設トイレ(男女共用)を設置している。 ・最近では、コロナ禍や健康志向により登られる方も増加しており、市外からの観光客にきてもらうためにも、もっと利用者にとって清潔で安心して使っていただけるようなトイレを整備する必要があると考えており、現在検討しているところである。
9	公共事業の発注 建設業界の担い手不足について	・建設業界は、高齢化も進み若手もおらず人手不足、働き方改革や研修制度を用いて担い手を育成することもコロナ禍で難しい状況なので、発注のバランスや価格などを考慮していただきたい。	・建設業界を取り巻く状況は非常に厳しいと認識している。平成30年の7月豪雨災害では今治でも甚大な被害が発生した。今年は被害に至ってないけどもいわゆる長寿命化に取り組まなければならない案件はたくさんある。 ・人材確保の面はトラックの運転手、公共バスの運転手でも同じようなことがあるのではないかと思うので意見交換の場を設け、検討を深めていきたい。 ・また発注の平準化、専任技術者の配置緩和の問題、単価スライドの問題、いい納品をしていただくために私たちが知恵を巡らせる部分があるならば業界の皆さんからもご提案いただければと思う。 ・インフラの長寿命化対策については、引き続き計画的に実施していく。 ・早期発注できるものは早期発注に努める。また、補助事業につきましては、可能であれば国の翌債制度を活用する等、施工時期の平準化を行い適正な工期設定に努める。 ・単価スライドにつきましては、国・県の動向を踏まえ、工事請負契約約款第26条第5項に基づき適時適切に対応する。